

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	69	学校名	天竜高等学校	校長名	飯田 寛志
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標は太字で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	学校評価	成果◎と課題▲
ア	基本的な生活習慣を確立し、時間、マナー、ルールを守ることでできる生徒を育成する。	問題行動発生件数（年10件以内）	R2年度 12件 R3年度 14件 R4年度 10件	B	◎問題行動発生件数は目標の10件以内であった。 ◎全校で集会する機会が少なかったが、学年集会で折に触れ校則やモラルの周知徹底を呼び掛けることはできた。 ◎生徒課、学年、担任で連携した。また、家庭と協力した関係性を作ることができた。 ▲指導基準は職員間で統一されている。今後、共通理解や報告、連絡、相談といった協力体制が必要である。
		「登校5分前遅刻」者（年200人以内）	R2年度 254件 R3年度 157件 R4年度 301件（12月現在）	C	▲25分遅刻数は12月現在、昨年度より、増加している。遅刻常習者や休み明け、また、雨の日への指導を工夫する必要がある。 ▲時間を守る指導を徹底する必要がある。
イ	爽やかな挨拶を励行するとともに、感謝の気持ちを素直に表現できる生徒、他の生徒の努力を認めることができる生徒を育成する。また、いじめ、迷惑行為、暴力行為を絶対に許さない雰囲気醸成する。	朝の特別挨拶運動（年5回）	特別強化日は設定しなかったが運動を活発化させたい。	B	◎朝の挨拶当番の生徒が意欲的に挨拶していたが、生徒全体の意識が薄れている。 ▲部活単位で挨拶当番を行わせるなどの対応策を検討したい。
		SST やいじめをテーマにしたLHR（年3回）	LHR年間計画に設定し、各HRで計画的に実施。	B	◎HR担任が工夫し、エンカウンター活動やレクリエーション、グループワーク等を通じてソーシャルスキルを育成する活動を行った。 ◎動画にてSNSの使い方を指導した。
		生活アンケート（年2回）	12月に実施。結果を全体で共有。	B	◎Googleフォームを活用して、生徒の状況を確認できた。業務削減のため年1回の実施とした。
		HRごとにMVP表彰（月1回）	担任の先生の協力を得て毎月の月間MVP表彰を行うことができた。	A	◎生徒が互いに尊重し合う雰囲気を学校全体としてつくり上げることができた。 ▲学期末は回数を少なくしてもよいかもしれない。
ウ	個々の実態に応じた学習指導の確立と、新学習指導要領を踏まえた授業改善を推進する。	授業が分かると答える生徒（80%）	生徒アンケート肯定回答授業に意欲的（86.4%） 授業がよくわかる（82.3%） 授業に満足（83.2%）	A	◎授業改善に今後も努める。授業アンケートによる各自へのフィードバックができている。 ◎観点別評価開始に伴い評価を意識した目標や観点別評価規準を設定した。調査結果をもとに、生徒への声かけをした。

		4月と1月を比較しD層の生徒が減少する。	D3ゾーン 1学年：微減 4月 77.7% 1月 77.6% 2学年：微減 4月 79.3% 1月 78.8% 3学年：基礎力診断テスト4月のみ受検。	A	1学年：上級学校を目指す生徒の学力保障について、次年度以降取り組んでいく。 2学年：生徒たちはよく努力し、課題を抱えながらも最後まであきらめずにやり遂げることができた。赤点を複数抱える生徒も数人おり、卒業を目標に努力を続けさせる指導が必要である。 3学年：進路希望や受験方法の違いにより、学習意欲や学習習慣を定着させ辛い状況になってしまった。更なる個別指導が必要である。
		ICTを活用した授業を実施する教員(80%)	プロジェクトを活用している職員が多い。	B	◎図書課と連携しクロムブック研修を実施した。 ▲ICT活用を中心にしたテーマで年間計画を予定してもよいと思う。
エ	授業、学習発表会、面接指導等を通じてコミュニケーション力を育成する。	コミュニケーション力アップを実感する生徒(80%)	生徒アンケート肯定回答(83.6%) 新学習指導要に準じて言語活動を取り入れた授業を行った。	B	▲教員間の情報共有の機会を設けたい。 ▲福祉科設置に伴う教育課程の見直しや台風による浸水被害で教務課に余裕がなかった。来年度には落ち着いてほしい。 ▲グループワーク、プレゼン発表を実践する職員はいたが全体への共有にはいなかった。
		3年就職希望者の面接指導(年5回)	外部指導者面接指導3回実施。 PTA 面接指導を行った。 教職員チューター制面接指導体制を構築した。	B	◎進学・就職希望者に面接指導担当者をつけることで面接指導機会の保証はできた。 ▲面接力が低い生徒の指導に課題を残した。次年度は自己表現力に不安のある生徒を見落とさず、継続的な指導ができる体制づくりを構築していく。 ▲面接時の表現力不足による不採用者が数名出た。
オ	語彙力、理解力、集中力を高め、柔軟な人間性を育む読書教育を推進する。	朝読書(原則毎日)実施するとともに、図書館の年間貸し出し冊数を前年比1.1倍にする。	・朝読書計画通り実施。 ・8時25分のBGM毎日実施 ・文学賞選考会、文化講座充実実施 ・天童文学賞授賞式、春野校舎と連携実施 ・図書館貸し出し冊数、 R4 329冊 R3 344冊 前年比0.96倍 ※12月現在	B	▲8時25分からのBGMによって体制が整うクラスを増やしていきたい。 ◎選考会は、短期間にも関わらず課題図書を読み、作品の魅力を掘り下げる選考会を行うことができた。 ▲受賞作家と編集者の話を聞き、文学への関心が高まった。今後は情報機器の活用などで、より多くの生徒に参加させたい。 ▲より多くの生徒に図書館の利用を呼び掛けたい。
カ	個々の目標を明確にし、個に応じたきめ細やかな進路指導を推進する。	進路希望調査(年2回)	進路希望調査2回実施 進路ガイダンス実施	A	◎進路希望調査をもとに、2年次では分野別のガイダンスを実施するなど、早期からの進路指導体制を構築した。 ◎希望に応じたガイダンスを実施した。
		就職内定率(100%)	学校推薦における就職内定率	A	◎学年部を中心に、就職指導体制を構築することができた。

様式第3号

			(100%)		◎進学希望から就職希望に変更があった場合も、生徒の希望に応じて企業を選定し試験に向けた指導ができた。
		希望進路達成率 (90%)	進路(進学)達成率(94%)※1月現在	A	◎担任を中心に、受験形態の選定、指導を展開した。 ▲多様な受験形態に対する指導体制の構築を今後も模索していく。
キ	学校行事、ホームルーム活動、清掃、部活動に積極的に参加する生徒を育成する。	意欲的に取り組んだと答えた生徒 (85%以上)	生徒アンケート肯定回答 (87.0%)	A	◎コロナの影響により、縮小開催となった学校行事を大切にしている姿勢がみられた。 ◎文化祭やLHRでは生徒が目的を持って意欲的に取り組んだ。生徒会役員も主体的に取り組んだ。
		部活動に一生懸命取り組んだと答える生徒 (80%以上) 休養日年間100日程度を達成する部活動 (70%以上)	生徒アンケート肯定回答 (84.8%) 年間休養日100日以上取得部活動 (70.4%) 効果的に休養日を設定することができた。	A	◎多くの大会が中止となったが、安全にも配慮した指導が継続できた。 ◎ほぼすべての部活動でガイドラインに準拠した活動を行った。
		清掃活動 (原則、毎日)	清掃活動は良好であった。 保健厚生委員はごみの持ち帰り、検温・消毒の呼びかけをした。 ごみの分別・回収ができた。	B	◎保健厚生委員会による清掃点検活動が実施された。 ◎浸水被害によって、ごみは増量したが、委員会としてのごみ減量の役割は果たせた。今後さらにごみの分別を行う。 ▲ごみ箱を減らす検討をする。 ▲浸水を想定した清掃用具の配置。 ▲アリーナトイレ等、使用状況が改善されない場所への対応が課題。 ▲浸水で振り返ってしまった1階の床の交換・修理。
ク	ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する生徒を育成するとともに、地域との連携、系列・類型間での連携を積極的に行なう。	天竜クリーンボランティア (2回)	各部活等で清掃活動を行った。	A	◎9月の大雨による浸水被害で、生徒が積極的にボランティア活動を実施し、地域の手助けとなる活動ができた。
		行政との連携講座 (年3回) 近隣の保育園・小学校等との交流 (年6回)	感染症対策をしながら交流活動ができた。 行政との連携3回以上、近隣の保育園・小学校等との交流18回実施。	A	◎天竜農林局と連携し、フォレストガイダンス事業を行った。 ◎浜松市動物園飼育員を「生物活用」の授業に迎え、動物園の役割について学んだ。 ◎夏休みに3回実施した「動物ふれあい広場」には多くの参加者が集まり、生徒の表現力、コミュニケーション能力の育成に資するものとなった。 ◎「農業体験交流」をやまびこ保育園と杉の子保育園で行った。
		校外・外部指導者による学習活動 (全員)	天竜区役所や地元NPO団体などと連携し、課題解決学習を中心とした探究学習を進める	B	◎コロナ禍により、様々な活動に制限がされたが、感染対策を行うことで様々な活動を進めることができたことは成果である。特に行政だけでなく、地元NPOや企業、大学と連携した活動が中心になることで、生徒たちがより教科の枠を超えた学びを進めること

			<p>ことができた。 「天竜の未来を考える若者会議」を2回実施した。地域と高校生がともに活動する継続的な場の設定を行うことができた。</p>		<p>ができたと考える。 ▲地域連携や地域協働に関わる活動が授業時間外で行われることが多くあり、勤務時間や部活動と探究活動との関係が大きな課題である。今後、地域協働を進めるには、授業時間外で活動ができるような環境が必要であり、地域探究部(仮)のような新規の部活動を作ることも一つである。</p>
		<p>検討会議 (年3回) 連携活動の実績(3組)</p>	<p>新型コロナ対応のため連携事業としての全校発表はできなかったが、系列・類型に協力してもらい、発表会と動画と発表要旨を作成した。 科目選択指導前から計画的に各教科の持ち時間を繰り返し調整した。</p>	B	<p>▲今後、総合的な探究の時間や課題研究などを授業として実施していく中で、評価規準やルーブリックなどの探究学習が継続的に進められる授業内容の研修が求められる。 ▲先進校研究やフィールドワーク対応の勤務条件などクリアする問題が複数あげられる。 ▲観点別評価における課題を共有し、改善に役立てたい。 ▲福祉科設置に伴う学校行事への影響を考えたい。 ▲TCCの活動をもとに地域探究の学びの構築を検討した。統一したシステムの要望はなかった。 ▲新課程の科目選択の指導方法について情報を共有することができなかった。今後、整理していきたい。</p>
ケ	<p>生徒の学校生活を支えるため、健康教育活動を推進する。</p>	<p>朝食摂取率(90%以上) 各種疾病治療率(65%以上)</p>	<p>90%以上未達成(10月の調査) 1年89.6%、 2年87.6%、 3年90.2% 疾病治療率 耳鼻科71.4%、 内科66%、 歯科42%、 視力CDのみ54.6%、 心臓100%、 尿0%(1名のみ)。</p>	B	<p>◎生徒保健委員会で調査を行った。 ▲コロナ禍3年目となり、生活リズムが夜型に移行しているものが多いように感じる。寝るのが遅く朝起きられない。食欲がわからない。食べないことの習慣化を感じる。 ◎歯科については意識調査をした上で、必要と感じていない生徒については、写真を用意し指導を行った。(10月から磐田市は医療費0円になった面は大きく、声をかけやすかった。) ▲各種疾病治療率をHR別、学年別にタイムリーに発信する。</p>
コ	<p>保護者、地域に信頼される学校づくりを推進するため、本校の特色や教育活動を積極的に情報発信する。</p>	<p>PTA活動(年10回)、PTA主催の講演会(年1回)</p>	<p>コロナ感染症拡大防止のため、活動が制限されたが、調整して実施した。 PTA講演会実施</p>	A	<p>◎PTA役員会を開催し、役員との意思疎通を行った。特に第2回役員会では座談会を実施し、学校運営について意見を聴くことができた。 ◎母乳育児相談室「マンマ」代表の根方友紀氏を迎え、講演をいただいた。</p>
		<p>学校だよりの発行(年10回)学校説明会開催(年3回)</p>	<p>「学校だよりを10回以上発行した。 中学生一日体験入学(8月)、学校説明会・授業見学会(10月)、学校説明会・部</p>	A	<p>◎「学校だよりをHPだけでなく、クラス掲示や地域の回覧板で回覧することにより、本校の教育内容の発信力を強化した。 ◎学校説明会(計3回)の参加者は、中学生301名、中学生保護者123名であった。(計424名 *参加者数は、前年度より7名増加した。事後アンケートでは、「参加して良</p>

様式第3号

			活動見学会(12月)を開催した。		かった」との回答がほぼ100%であり、本校の魅力を発信できた。 ▲学校説明会の回数が多く、業務量が膨大である。
		ホームページの更新(随時)	トップページの情報精査。 ・更新回数86回 ※12月現在	A	◎定期的に記事の書き方の講習を行うことで、幅広い記事の提供を呼び掛けたい。 ◎トップ画面更新5回以上実施。情報鮮度が保持できた。
サ	教職員の資質向上を図るとともに、働き方に関する意識改革を推進し、業務分担の適正化を図る。	校内研修会(年2回)	初任者研修では毎月分掌長の講和をいただいたが、台風による水害その後の復旧作業により予定の半分程度しか実施できなかった。 第1回の校内研修において、本校の基礎学力についての講演をいただき、現状を教職員間で共有できた。	B	◎運営委員の先生方の講話は、幅広い観点からのご意見をいただく良い機会となっている。今後も継続して実施したい。 ▲校内研修で、本校生徒の現状を把握していただく良い機会となったが、やりっぱなし感あり。振り返りの時間を各教科でもつことで現状把握に深まりがもてたと感ずる。
		不祥事根絶研修(月1回)	職員会議で実施。	A	◎県の「コンプライアンス強化月間取組」を利用できた。
		定時退勤の実施週1回 夏季休業中の休暇取得日数8日以上	21時過ぎまで学校に残る教職員は減少。 8日以上取得職員16人/74人(21.6%)	B	◎業務削減を各分掌に呼びかけ、具体策を実施に向け、検討中。 ▲定時退勤の呼びかけをしなかった。 ▲夏季休業中の夏季休暇(5日)の取得は36人/74人(48.7%)であった。コロナ感染や濃厚接触自宅待機の影響大。
		業務総量が削減した分掌の割合(80%以上)	台風15号の大雨による浸水被害のため、復旧作業、事務作業共に業務量は増加した。	B	▲台風15号の大雨浸水被害の復旧作業は年度内の完了見込みは立っていない。 ▲令和5年度は予定されている教員減に備えて業務削減が必要である。
シ	危機管理体制及び「命を守る教育」の充実を図る。	重大交通事故発生件数(0件) 街頭交通指導(年10日)	重大交通事故発生件数(0件) 街頭交通指導10日実施。	B	◎自転車指導カードの指導は11月現在、昨年度(81)、今年度(63)と減少した。 ◎コロナの影響もあり交通安全教室も縮小して実施したが、定期的な自転車のチェックを行うなど、全体への声掛けを実施することにより生徒への意識づけもできた。 ▲重大事故は発生していないが一時不遵守違反が目立った。
		防災訓練(年2回)	防災訓練を2回実施。 第2回の防災訓練は、図上訓練	A	◎グラウンドへの避難訓練を2回(4月・7月)実施した。 ◎教職員対象の「校内防災ツアー」(5月)を行い、防災設備・備蓄食料の点検を実施

様式第3号

			とし、消防署員よる防災講話を実施した。 教職員対象の「校内防災ツアー」を実施した。		できた。 ◎9月の水害により、危機管理マニュアルの追加、生徒用防災備蓄品の充実など防災体制を見直した。 ▲7月の防災訓練は、熱中症の危険性があるので、11月へ変更したい。今後も危機管理体制の構築を進めたい。
ス	効率の良い業務遂行、業務改善に努め、安全・安心な教育環境の整備充実を図る。	定期的な検査等 (指摘0回)	定期的な検査等の実施に伴い、指摘に該当する項目はありませんでした。(注意に該当する事項…2件)	A	▲法令遵守を念頭に業務の遂行ができた。注意事項を少しでも減らす努力をしていく必要がある。
		施設設備の点検(月2回)	技能員を中心に施設設備の点検を月2回実施した。	A	▲危険個所の早期発見に努めるため、定期的な点検や、職員とのコミュニケーションを密にし、安全・安心な教育環境整備を推進していく必要がある。
		危険箇所の確認、迅速な修理による危険回避(随時)	危険個所の確認を速やかに行い、迅速な修繕に心掛けた。 災害に伴い多大な被害があり、復旧に向けて事務部一丸となり取り組んだ。	A	▲災害復旧は、少しずつではあるが改善されている。来年度前半までは、復旧作業が続く見込みであり、事務部としては、負担が大きい。